



今井小だより

横浜市立今井小学校
令和3年1月6日
学校だより1月号

学校教育目標：かがやいている子「自分大好き！今井大好き！」

新しい年が始まりました

学校長 森脇 信行

新たな年を迎えました。保護者の皆様、地域の皆様におかれましても、清々しい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、去年は本校の教育活動に温かいご支援・ご協力をいただきありがとうございます。一年の計は元旦にありといいますが、今年も子どもたちが夢や希望をもって、安心して意欲的に学習に取り組むことができる学校でありたいと考えます。本年も保護者・地域の皆様の変わらぬご支援をよろしくお願い致します。



12月に生まれたアホロートル

7月号でも紹介しましたが、今年度から小学校において「プログラミング教育」が導入されました。政府からは、昨年「一人一台端末配備」を目指した GIGA スクール構想が公表され、本校でも準備を進めています。また、コロナ禍の中、世の中は一気にオンライン化が進み、人々の生活習慣や働き方まで変わりつつあります。スマートフォンが世に表れて、まだ10年足らずですが、凄まじい進展で生活スタイルが変わってきました。私が通勤途中に見る景色も初任の頃とは大きく異なりました。スマホで駅の改札口やバスを乗り降りする人、スマホで買い物をする人……、子どもたちが社会で活躍する10年後、20年後はどのような社会になっているのでしょうか。明らかに言えることは、人間と同じような認知能力を備え、瞬時にデータ管理が行える AI との共生社会になっているということです。あくまでも想像の域ですが、働き方は大きく変わっているでしょう。仕事はプロジェクトチームによる課題解決が中心、隣に外国人がいるのは当たり前で同時通訳によるコミュニケーション。AI 搭載のロボットもミーティングに参加しているかもしれません。

そんな時代に生きる子どもたちに必要な資質・能力は何でしょうか。

私は、多様性を受け入れる寛容性と正解のない解に向かう学びの姿勢だと思います。そのためにも、本校では様々な本物に触れさせる機会をつくります。同時に、日々の教育活動に ICT 機器の利活用に努めます。そして、失敗を恐れぬ果敢なチャレンジを教職員が支援していきます。すべては、次世代を担う子どもたちのためです。子どもたちが科学技術の消費者になるのではなく、共生もしくは価値の創造者になってほしいと願います。

